

2022（令和4）年度の温室効果ガス排出量について

令和8年2月
旭川市環境部

1 2022(令和4)年度の温室効果ガス排出量【確定値】

(1) 総量

- 2022年度の本市の温室効果ガス排出量は、2,702千t-CO₂でした。
- 前年度の排出量（2,673千t-CO₂）と比べて、1.1%増加しています。
- 旭川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・第2版）（以下「実行計画」という。）の基準年度である2013年度の排出量（3,489千t-CO₂）と比べて23%減少しており、2030年度の中期目標までは33%の削減が必要な状況です。

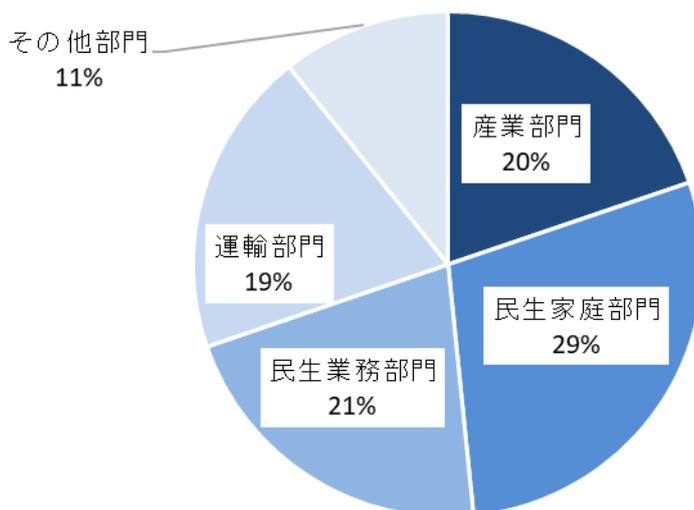


※速報値：2025年12月末時点で入手可能な統計等に加え、未入手の統計データを前年度と同値で仮定した予測値

(2) 部門別

- 民生家庭部門からの排出が最も多く、全体の約3割を占めます。
- 次に民生業務部門、産業部門、運輸部門と続き、当該4部門で全体の約9割を占めます。
- なお、その他部門の増加は、廃棄物部門において、昨今の燃料高騰を背景に廃棄物由来燃料（廃タイヤ・RPF）の利用が増加したことが要因と考えられます。

2022年度の部門別排出量 (単位:千t-CO₂)



部門別の温室効果ガス排出量

(千 t-CO₂)

部門	2013(H25) 【基準年度】 a	2021(R3) 【確定値】 b	2022(R4) 【確定値】 c	増減		2023(R5) 【速報値】
				【基準年度比】 c - a	【前年度比】 c - b	
産業部門	767	640	534	▲ 233	▲ 106	503
民生家庭部門	927	773	774	▲ 153	1	735
民生業務部門	902	572	576	▲ 326	4	529
運輸部門	609	517	528	▲ 81	11	522
その他部門	284	172	290	6	118	▲ 180
合計	3,489	2,673	2,702	▲ 787	29	2,109

2 2023(令和5)年度の温室効果ガス排出量【速報値】

- 2023年度の本市の温室効果ガス排出量は、速報値で2,109千t-CO₂となり、22%の減少が予測されます。
- その他部門において、実行計画の改定に併せて導入された森林吸収量による減少が主な要因です。
- なお、産業部門及び民生(家庭・業務)部門の一部が未確定となっております。